



来賓メッセージ

- 自然と環境 赤井望・1
- やさしくすてきな人達 浅井薫・1
- 希望の未来に向かって 池田勝利・1
- 美しい竹林を目指して
稲岡利春・世良田芳弘・1
- 継続は力、“環境の都”を目指す熱き想い！
猿渡幸男・2
- すくすく教室をよろしく 大江隆一・2
- 学ぶ場。そして自分自身のふりかえりの場
数井美智子・2
- 「フードバンク長岡京」を設立して 片山洋子・2
- 世界規模の地域 木本直樹・3
- 長岡京環境検定をとおして 栗垣麻菜・3
- 目にはさやかに見えねども 城田賢二・3
- 15周年から20周年へ！ 田邊八千代・3
- 北の森から 檀浦正子・4
- 何事にも楽しく 富森恵美子・4
- 環境保護団体の鑑！ 中川宗孝・4
- 古の都・環境の都 中村修・5
- 15周年に寄せて 西本雅則・5
- 歩きと自転車の街 船越聡・5
- 祝：発足15周年 三上仁美・5
- 素敵にすくすく教室に感謝！
三輪宏子・高木靖子・6
- みんなで楽しく省エネしませんか
森本久美子・6
- 自然との共生社会を目指して 山田和美・6
- 貴重な環境保全に向けて 横山羌泰・6
- “環境の都”長岡京へ、一歩ずつ！
渡辺まどか・7

会員メッセージ

- 私と環境の都づくり会議～みんなで
楽しくエコライフ～ 天野光雄・7
- 「環境検定」で楽しく学ぶ 石井啓子・7
- 家庭の省エネ 石田次郎・7

- 身近な意識 市嶋航・8
- 煙突の煙 江川宗治・8
- 緑のサポーター雑感 奥西弘武・8
- ・・・そして竹炭作りに 小根田勝信・9
- 未来予想図 加藤克巳・9
- 15周年の感想 北村不二雄・9
- 全国水生生物調査 草場克彦・9
- もっと広げたい“木のネットワーク”
栗山裕子・10
- 信じる！そして、今
自分にできる事をやろう！ 神山忠・10
- 環境の都づくり15周年に寄せて
白石多津子・10
- 捨てる「紙」あれば拾う「紙」あり
高橋一女・11
- 環境と保育 高橋由紀子・11
- 私のボランティア活動15年 田原誠一郎・11
- 次世代に残す素晴らしい環境 堤淳太・11
- 祝15周年 中嶋陽子・12
- 出会いに恵まれこの環境を大切にしたい
中田利享・12
- 長岡京市をさらに住みよい環境の都に！
西村厚子・12
- 竹あそび 西村孟雄・12
- 早くも15年 西村日出男・13
- 地球にやさしいエコライフ 秦陽子・13
- ボランティアにかける思い 濱田保・13
- 環境教育の未来性 平岡信之・13
- 環境の都づくり会議の今を俯瞰して
古澤登美代・14
- 都づくり会議に支えられた年月 柳沼宣裕・14
- 後継となれるように！ 山本智・14
- 一人から多くの仲間と共に 山本昌枝・14
- 環境の都、15周年に寄せて 湯川圭造・15
- 環境の都15年史発行に向けて・
横井徹・横井礼子・15
- ボランティアの高齢化に思う 渡辺節郎・15

来賓メッセージ



自然と環境

赤井 望

15周年おめでとうございます。所属時はエコチームでお世話になりました。

現在、私はカナダのバンクーバーに住んでいます。こちらも日本と同じく環境に配慮しており、学校や会社、フードコートなどに分別用のゴミ箱が設置され、それぞれ生ゴミ、プラスチック、紙類などを分けて入れることが出来ます。また、多くのカナダ人は自然が好きで、週末になると散歩、ピクニックやハイキングに出かけます。冬はウィンタースポーツも人気です。そのためか、「新たに木を切らなくて良いように紙を再利用しよう」とか、「要らなくなった物でもまだ使えるものは、捨てずに必要な人にあげてゴミを減らそう」と、自然を貴重なものに感じ、向き合っているのが伝わってきます。

多くの方が環境を意識することで、その取組が自ずとより多くの人に広がり、自然豊かな地球を守っていくことができるのだと思います。(元エコチーム)



やさしくすてきな人達

浅井 薫

省エネ相談所やイベントなどで、エコチームのみなさんと一緒に活動させていただくことがあります。テキパキと頼りになり、細かなところまで気を配ってくださる田原さん、自作の電球比較装置を使った説明がとても説得力のある中田さんをはじめ、とにかく皆さんすてきな方ばかり。メンバーの皆さんの笑顔が、お客さんや子どもたちに伝わっていくのを見て、私も楽しく元気になります。そして、同じイベントでも前回とは違う工夫があり、さりげないところまで心配りをされているのを感じて嬉しくなります。

先日、江川さんに他のPJT活動についても教えていただきました。地元に着した多彩な活動。何よりメンバーの皆さんがやりがいを持って楽しみながら活動されていること。15年間の活動を通じ、たく



さんの方が心を動かされ行動を変えてこられたことでしょう！ 15周年おめでとうございます！ これからも、どうぞよろしくお願い致します。

(京都府地球温暖化防止活動推進センター)



希望の未来に向かって

池田 勝利

発足より15年もの長きにわたり『長岡京市環境の都づくり会議』を支えてこられたお一人お一人のご尽力に、心より敬意を表します。

「足は大地につけて、瞳は希望の未来に向かって」—これは私たちの高校入学にあたり、恩師が贈ってくださった言葉です。環境運動の分野で有名な「Think Globally, Act Locally」が、常に周囲への影響を考えながら行動することの大切さを示した言葉であるのに対し、この「足は～」は、未来に対する希望を失うことなく今、チャレンジすることの大切さを教えてくれているように思います。

皆様が故郷の未来像を明確に描きつつ、より良い環境実現のため地道に活動を続けておられることは、他地域のよき手本となるのではないのでしょうか。

御会の今後ますますのご盛会を、心よりお祈り申し上げます。

(関西創価高校教諭)

(環境教育ミーティング講師)



美しい竹林を目指して

稲岡 利春

世良田 芳弘

長岡京市環境の都づくり会議様が本年で発足して15周年を迎えられ、会員皆様の熱意と努力に敬意とお祝いを申し上げます。

環境の都様とは竹あそびで一般市民に放置竹林に関心を持ってもらうという共通の目的で取り組んできました。竹あそびの開催を通じ、特に竹林再生グループと協力関係ができました。今年は、長岡京市に竹林整備の補助金を共同で申請をした結果、軽トラックの購入と竹林に作業道を作ることができ、高齢化したボランティア会員の作業の負担を減らすことができました。また、今夏の茨木高校から80名も竹林整備活動に来られた時に、環境の都様を始め、



長岡京市農業振興課様、石田ファーム様からスタッフ応援を頂けるような共同体制もできました。

放置竹林も2グループで4万㎡を管理、長岡京市の竹林が美しくなってきましたが、まだまだ課題が山積みです。5年先、10年先にさらに美しくなるよう頑張りましょう。

(竹の学校 代表)



継続は力、“環境の都”を目指す熱き想い!

猿渡 幸男

長岡京市環境の都づくり会議設立15周年を迎えられることに対して、万感の思いをもってお祝い申し上げます。

自分たちの住む長岡京市の街を市民レベルの自由な発想と結集力をもって、“環境の都”にして行こうと精力的に努力されて来られたことに敬意を表します。

長岡京市における環境問題を多彩な人材と多様なプロジェクトを構成し、日常的に奮闘されて来られたことを目にしてきた私にとって、長岡京市環境の都づくり会議の存在は、長岡京市の環境行政推進の大きな追い風となって来たことを確信しています。

これからも、設立20周年、30周年、・・・へ、目まぐるしく変化し、課題の多い環境問題に対する貴会の益々の御活躍と御発展を心から期待し、お祈り申し上げます。

(元長岡京市環境政策監)



すくすく教室をよろしく

大江 隆一

「環境の都づくり会議」15周年、まことにおめでとうございます。

わたくしが環境の都づくり会議にお世話になりだしたのは、すくすく教室(放課後子ども教室)の担当になった平成26年度からです。市内の小学生がすくすく教室で、たけのこ掘り、小泉川自然体験、金ヶ原いこいの森体験、炭焼き体験などの活動に参加し、その様子を写真に撮りに行っています。多いときは、40人を超える児童が参加して、学校や家庭ではできない体験をさせていただいています。子どもたちが目を輝かせ、本当にいい経験をしている様子を見ることができています。

環境の都づくり会議は西山の環境保全に取り組まれています。子どもたちは炭焼き体験では、CO₂、



竹やぶや西山保全などに関する環境問題についても教えていただき、理解を深めさせていただいています。

将来、この子どもたちが西山や長岡京市の環境問題について、意識や興味を持ってくれればうれしく思います。

今後とも、すくすく教室をよろしくお祈りします。

(長岡京市教育委員会 すくすく教室担当)



学ぶ場。そして自分自身のふりかえりの場

数井 美智子

15周年、心からお祝い申し上げます。

私が環境教育ミーティングに出会ったのは、ちょうど5年前の10周年記念の年でした。ふと目に付いた広報記事がきっかけで参加し、自分自身が今まで関わってきた自然体験活動とはまた別の、多様な切り口での環境教育を知識と体験とで学ばせていただきました。そして、昨年度は西村様からのお声かけで、今度は私自身が前に立ってお話をする機会もいただきました。前に立つことは、聞く以上に多くの学びがあります。そして、自分自身の軌跡をふりかえる貴重な機会となりました。環境教育ミーティングをはじめ、長岡京市環境の都づくり会議に携わられている多くの皆様の環境への真剣で生き生きとした取り組みの姿勢は、私たち環境活動に携わる者だけでなく、多くの人を動かす原動力となっていると感じています。

どうぞこれからも、20周年、30周年と、この熱い想いが引き継がれていきますよう、心より願っております。

(環境教育ミーティング講師)

(エコキッズネット大阪・京都代表)



「フードバンク長岡京」を設立して

片山 洋子

私達と同じ“環境”に携わる者にとって、貴団体が記念の節目を迎えられたこと、お喜び申し上げます。私達は食品ロス削減運動をして参り、この度縁あって多才なノウハウをもった12名で「フードバンク長岡京」を設立いたしました。捨ててしまえばごみとなる物が、“もったいない”から“ありがとう”への合言葉を大切に フードドライブを通して無償で提供い



ただければ、子供達に、高齢者に、災害時に、福祉に無償で提供するシステムです。早速 社会福祉協議会がパイプ役となり、11/29「市の環境フェア」でいただいた食品を使って1/26“みんなのポケット”で使わせていただきます。

今後 機会あるごとに「フードバンク長岡京」は活動いたします。皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

(長岡京市生活学校・生活会議 会長)
(フードバンク長岡京 委員長)



世界規模の地域

木本 直樹

先日、スマホのディスプレイに江川さんのお名前が。長岡京市環境の都づくり会議が設立 15 周年を迎えるのご連絡をいただきました。通話時間 13 分 39 秒、お話をさせていただく間、都づくり会議メンバーのお一人おひとりのお顔と活動にご一緒させていただいた



日々を思い起こしました。永きにわたる皆さまのご活躍には頭が下がる思いです。長岡京市環境の都づくり会議設立 15 周年本当におめでとうございます。15 年間の環境問題を振り返れば、世界規模で気候変動が進行、人口増加で食料問題や廃棄物問題が深刻化。我が国でも 15 年前は「未来のエネルギー」と言われていた原発の安全性が根本から崩壊しています。環境の都づくり会議の皆さんの取組は世界規模で考えた地域からの活動で、地道ですが全ての人々が関わらなければ環境問題の解決には至りません。日々一歩ずつ、皆さんの着実な活動を応援します。お体を大切にこれからもよろしくお願ひします。

(元長岡京市環境業務課長)



長岡京環境検定をとおして

栗垣 麻菜

設立 15 周年おめでとうございます。

平成 28 年 9 月に第 3 回長岡京環境検定を開催しました。

当検定では、都づくり会議のメンバーに最初から最後まで携わっていただいております。

ご存知の方もいらっしゃるかと

思いますが、問題は広報長岡京の記事から作成します。



そのため、今までじっくりと広報長岡京を読んでいなかったこともありましたが、これを機に広報長岡京をじっくりと読むようになったので、環境検定を通して受検者と共に私も長岡京市のことを知ることができたと思っています。

また、皆さまの環境への想いはとても熱く、見習っていかないといけないなと感じさせられることもあります。

第 4 回長岡京環境検定の開催を予定していますが、皆さまと協力して様々な方に長岡京市の環境について考えることのできる良い機会になるよう取り組んでいこうと思います。

「長岡京市環境の都づくり会議」の更なるご活躍を期待いたします。

(環境政策室・「長岡京環境検定」担当)



目にはさやかに見えねども

城田 賢二

創立 15 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

私は、環境関連の部署に配属されてまだ 1 年ですが、環境問題の奥深さを日々痛感しています。環境問題の難しさは、個別の環境問題も他面では相互に関連し合った複合的な問題として捉えられる点や、身近な問題も実は地球規模の問題につながることなど範囲やスケールが掴みにくいこと、原因や成果が可視化しづらい点などにあると感じています。目にはさやかに見えねども、まわり（環）の世界（境）の変化にぞおどろかれぬる、といった感じです。

今世紀は“環境”にとってのターニングポイントです。貴会議のように常に意識を高め、楽しみながら継続して取り組むことが私たち一人一人に求められています。

長岡京市が日本の誇れる“環境の都”となれることを切に願ひ、貴会議のさらなるご活躍と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

(長岡京市役所環境政策室長)



15 周年から 20 周年へ！

田邊 八千代

環境の都づくり会議のみなさん、15 周年本当におめでとうございます。

長いあいだ、活動を続けてきてくださった皆さんに

お祝いと心からお礼を申し上げます。

私にとっては、環境政策にいた5年間のほとんどを都づくり会議の皆さんとお仕事をさせていただいたような気持ちです。今の私があるのは、皆さんのおかげと言っても過言ではないくらい、濃い時間を過ごさせていただきました。



これからも皆さんのお力で子供たちや地域の人たちの新しい発見や取り組みの一步をアシストしてもらえると嬉しいです。

次の5年間でまた新しいメンバーが加わり、輪が広がっていき...多くの皆さんと20周年をお祝いできるのを楽しみにしています。

(長岡京市役所交通政策課)
(環境教育ミーティング講師)



北の森から

檀浦 正子

環境の都づくり会議設立15周年おめでとうございます。2014年の環境教育ミーティングで「森林のCO₂吸収メカニズム」というタイトルで講演させていただきました。環境はわたしたちのまわりをとりまき、わたしたちに影響を与えますが、人も環境に影響を与えます。いい影響もわるい影響も与えることができます。仕事で、極域の森林へ行きますが、ことしのアラスカは、観測史上もっとも春が早く、暖かい年でした。暖かいアラスカは、外でビールを飲むには最高なのですが、森林の地面の下にある永久凍土のことを思うとときどきします。地球はつながっているの、どこかで何かをやりすぎると、どこかにひずみが出ます。「わが亡き後に洪水よ来たれ」という意識を改革し、じぶんの行動がどのような影響をおよぼすのかにまで考えを馳せることができるようになるためには、教育しかありません。貴会議の地道で着実な活動に、(京都大学地球環境学学)大きな期待をよせて。(環境教育ミーティング講師)



何事にも楽しく

富森 恵美子

創立15周年誠にありがとうございます。「環境の都」様が長きにわたって高い理想の下、コ

ツコツと活動されてこられたことに深く敬意を表します。

私ども「花にしき」は「何事にも楽しく」をモットーに勉強会、ハイキング、料理実習、手芸等に取り組んでおります。「環境の都」様には、種々お世話になっております。春先には筍堀に参加させていただき、思いもかけない重労働であることに気づき、何にもまして収穫の喜びに感動しました。この数年「竹あそび」に参加させていただき、頑張って手芸品を作り、それを売ることの喜びを実感しました。またその後のバーベキューでは全員が童心にかえって楽しいひと時を過ごさせていただき、私どもの活動が彩り豊かなものとなっております。これも皆様方のひとかたならぬお世話のおかげだと深く感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



(花にしき代表)



環境保護団体の鑑！

中川 宗孝

長岡京市環境の都づくり会議発足15周年、おめでとうございます。里山再生はじめ、様々な分野での精力的な取り組みは、姉妹団体の「城陽パートナーシップ会議」も嬉しい刺激となって活動の励みとしてきました。当会も城陽市環境基本計画推進の一環で、市と市民、事業者と市民団体とのパートナーシップによる活動を理念として平成15年10月に発足し、年間最大行事と位置付ける「城陽市観察フォーラム」も昨年で15回目を数え追走しています。



南山城地方の野生生物の調査・研究に携わり、所属学会で発表を続けるナチュラリストも、郷土の希少動植物とその生息環境保全の願いはこうした環境問題に取り組む人たちの理解と協力があってこそその賜物です。城陽PS会議を活動母体に、年4回の自然観察会と研修会を主催し、各種イベントでの啓蒙活動で支援の環を拡げています。



これからも20周年30周年と、共に切磋琢磨の環境保護活動の報告で、全国に世界に朗報発信を競い合って参りましょう！ (ナチュラリスト)

(城陽環境パートナーシップ会議)
(環境教育ミーティング講師)



古の都・環境の都

中村 修

環境の都づくり会議発足15周年おめでとうございます。

長岡京市の環境指針である環境基本計画の実行部隊として様々な分野で活躍いただき、多くの市民から環境の都づくり会議の認知度は長岡京市のみならず京都府下でも知られる存在になっていると感じています。

私は平成17年度に環境部門の責任者として皆様方と一緒に環境フェスティバル・省エネ相談・打ち水大作戦など楽しく仕事をさせていただきました。特に西山の森林整備事業においては長岡京市の宝である西山をフィールドとした環境教育事業である西山ファミリー環境探検隊をはじめとする活動を産官学連携の事業が展開され、10数年の歳月が経ても多くの子供たちを西山に送り続けていただき感謝しております。

長岡京は古の都であります、同時に環境の都として今後も誇れる街として、活気あふれる市になるため、私の現在の仕事場であるバンビオから活動し、環境の都づくり会議の良き相談者であり、かつ、サポーターとして応援させていただきます。

今後も御活躍を期待しています。

(長岡京都市開発株式会社 支配人)



15周年に寄せて

西本 雅則

「長岡京市環境の都づくり会議」の発足15周年おめでとうございます。今では当たり前になった、行政の施策づくりに市民が参画し、協働でつくりあげた全国でも先進的な取り組みが、15年もの期間継続して活動されていることに敬意を表します。当初から微力ながら参加させていただいていることに感謝しています。ニュースなどで長岡京の環境活動が紹介されるのを見ると、自分の事の様に嬉しくなります。

思い返せば、私自身が行ってきた里山保全や炭焼き、河川の整備とビオトープづくりなどの環境活動は、環境の都づくり会議のみなさんから学ば



せていたものばかりです。地球温暖化防止活動も京都議定書から、パリ協定の発効により次のステージになっていきます。気候変動に伴う自然災害も増加するなか、森林保全や環境教育の重要性は高まっています。更なる市民や事業者の参加を目指して、ますますのご活躍を期待しております。

(特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都 副理事長)



歩きと自転車の街

船越 聡

長岡京市は観光スポットが分散し、歩いて巡回できる街になっていない。観光客が増えない原因になっていると思う。レンタサイクルを充実させ、「自転車の街：長岡京」をアピールすべきと思う。

しかしこれは環境の都づくり会議の関われる事業ではなさそうだ。ふだんの生活の場として、「歩いて楽しい街」を作ることはできないだろうか。街路に手入れされた花壇。街中の景観。歩きやすい舗道。散歩が楽しい街になれば、人が家の中から出てきて近隣の人との交流の場もうまれる。

京都自転車マップ制作のボランティアをやっていたが、自転車でめぐるルートもまた、長岡京市ではなかなか絶好のコースを作れない。歩きやすく走りやすい道を作れないか。魅力的な景観と地理的な便利さを生かし、人が楽しく集える街はどうすれば作れるかと思案しています。

(環境教育ミーティング講師)



祝:発足15周年

三上 仁美

この度は「長岡京市環境の都づくり会議」発足15周年おめでとうございます。

私は2011年から2年弱程度参加させて頂き、エコチームでは小学生と一緒に遊んだり、貴重な体験をさせて頂きました。

現在は主人と共にインドのグルガオンという都市で働いております。

参加させて頂いたきっかけは東日本大震災で何か自分の国で役に立つことがしたいと思ったことでした。後半は仕事が忙しくなってしまう、ほとんど参加出来ませんでした。エコチーム以外のチームのイベ



ントにも参加させて貰い、楽しかったのを覚えています。

発足 15 周年ということで、皆さま変わらずお元気に活動されている事を大変嬉しく思っています。これからも末永く活動して頂き、長岡京市の代表的な団体として益々のご活躍を心より願っております。

(元エコチーム)



素敵なすくすく教室に感謝！

三輪 宏子 高木 靖子

「オッチャン、手伝ってエ」、「よっしゃ、よう頑張ったなア」、長岡天神さん裏の竹林のあちこちからこんな声が聞こえてきます。



長岡第六小学校すくすく教室では毎年『筍掘り体験』に参加させて頂いています。竹の種類、放置竹林の再生などについて学んだ後、いよいよ筍掘り。子供たちの目はキラキラ、掘り出した筍に歓声が上がります。産地であってもなかなかできない体験です。

他にも、竹炭焼き体験の教室では、炭の取り出しや竹製のおもちゃ作り、ノコギリを使っての竹伐りなど子供たちが夢中になる企画があります。準備をし、工夫して体験させてくださっていること本当にありがとうございます。また、ビオトープでの学習やザリガニ釣り、科学遊びで自分の手で電気や風を起こす体験なども大人気です。

これからも、子供たちの記憶に残る素敵な企画をよろしくをお願いします。

(長岡第六小学校すくすく教室コーディネーター)



みんなで楽しく省エネしませんか

森本 久美子

「長岡京市環境の都づくり会議」15周年おめでとうございます。

みなさまには環境フェアをはじめさまざまなイベントで環境への取り組みの普及、啓発にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

また貴団体は多岐にわたり熱心な活動をされており、その中でも省エネの取り組みの普及では、みなさま



の豊富な知識に驚かされ、ちょっとした工夫で省エネになることを教えていただきました。

本市では平成 26 年度より「省エネナビモニター事業」を開始し、「楽しく省エネ」をテーマに取り組んでいますが「楽しく省エネ」できることをもっと広めていきたいと思っています。

ひとりひとりが出来ることは小さなことかもしれませんが、多くの人が取組みれば大きな成果が得られると思います。地道なことかもしれませんが、今後もこのような取り組みを続け、広めていただくことをお願い申し上げるとともに、今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(長岡京市環境政策室環境政策担当)



自然との共生社会を目指して

山田 和美

地球の気候変動からくる異常気象、生態系の攪乱に伴う農作物への鳥獣被害。私達が住むこの街にも様々な環境課題が確実に迫っています。そんな中、今を生きる世代の責任として、環境問題の解決に向けて、果敢に挑戦されて 15 年を経過されるとのこと、改めて敬意を表します。自然との共生社会を目指して、「長岡京市環境の都づくり会議」の活動が、他の市民活動に大きな示唆を与える存在として、今後とも更に発展されることを心よりお祈り致します。15周年誠にありがとうございます。



(市民活動ネット・チーム長岡京・理事長)

(長岡京市市民活動サポートセンター指定管理者)



貴重な環境保全に向けて

横山 莞泰

市の広報の案内を見て、今年 3 月に環境教育ミーティング「宇宙から地球を見つめる視点の大切さ」に出席したことで、当市の市民団体が精力的に環境保全に取り組んでいることを初めて知りました。9月に当方が参加させて頂いたミーティングを傍聴



していた堺市に住む中学の同級生は、「勉強好きな市民が多い」との感想を漏らしていました。

在職中も定年退職後も業務でいくつかの開発途上国に滞在していたのですが、街中でも停電や断水は日常茶飯事の状況です。環境エコ等について中央政府が働きかけても中々思い通りに行かないのが実状で

す。が、温厚で人なつっこい国民性と共に、数々の素晴らしい遺産や壮大な手つかずの自然風土を有しています。

ともあれ、先進国に住む我々はこの実態を踏まえた上で、緑と水それに往時日本の首都だったという貴重な歴史に恵まれた当市の環境を、絶えることなく次世代以降に伝えていくことが大きな命題である、と考えます。

(環境教育ミーティング・講師)
(JICAのシニア海外ボランティア)



“環境の都”長岡京へ、一歩ずつ!

渡辺 まどか

環境の都づくり会議発足15周年おめでとうございます。

第二期環境基本計画がスタートした平成25年からの3年間、環境政策担当としてお世話になりました。初めはエキ



スパートの皆さんのお話に耳を傾けるのが精一杯でしたが、様々な取組みを通じて、次第に意見やアイデアを出し合えるようになり、長岡京市の目指す“環境の都”という目標に向かって歩みを進めることができましたと感じています。

環境の取組みにおいては、一人でも多くの人に関心を持ち、実践につなげることが大切です。環境の都づくり会議の皆さんの熱意溢れる幅広い活動が、子どもたちをはじめ、これからを担う多くの方々へ、環境配慮の「気付き」や実践の「きっかけ」を提供して下さるものと確信しています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

(長岡京市障がい福祉課 社会参加支援係)



会員メッセージ



私と環境の都づくり会議 ～みんなで楽しくエコライフ～

天野 光雄

長岡京市環境の都づくり会議発足15周年おめでとうございます。

私自身が省エネ、ごみ減量をテーマにした環境学習イベントの開催に取り組んでいるので相性がピッタリのエコチームに参加しています。個人の生活で

は二酸化炭素排出量、ごみ排出量がそれぞれ標準家庭の約半分、約3分の1のコンパクトな生活ですが特に不便を感じる事なく快適に過ごせています。これが出来ているのも、エコチームという話し合える仲間がいて、新鮮なアイデア、情報を交換できるから。



都づくり会議のプロジェクトは、エコチーム以外にも自然環境関連の多様なテーマ、タイトルを見るだけで心をそそる環境教育など多彩なので、環境ニュースで活動報告を読むのが楽しみです。

15年の歩みが太い根になり逞しい幹になりました。一つ一つの枝(プロジェクト)から沢山の花を咲かせ続けましょう。

(エコチーム)



「環境検定」で楽しく学ぶ

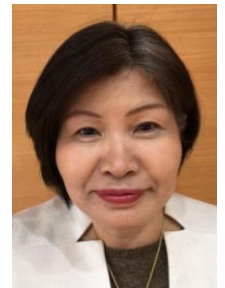
石井 啓子

「長岡京市環境の都づくり会議」創設15周年誠にありがとうございます。

地球温暖化による異常気象は日本各地に暴風雨をもたらし、洪水や土砂災害・猛暑など四季を問わず私たちの生活を脅かす状況となりました。美しい日本の四季が変わりつつあると危惧する日々です。

また世界各地で発生した自然災害で、わずか一年間で一億人を超える人々に被害が及ぶ事態となるなど、温暖化による異常気象は地球規模での深刻な課題となっています。

「環境」という多岐にわたる事象・分野を西山の自然環境や身近な地域での様々な環境活動を通じた取り組みや、また数えること88回開催された「環境ミーティング」に於ける環境教育は「環境の都づくり会議」の15年間の歩みの中で「環境問題」の啓発に多大な貢献であると実感致します。また今年で3回目となる「環境検定」は楽しく学び、長岡京市の歴史や文化を身近に感じられる良い機会となっています。今後のご発展を期待致します。(環境教育PJT)



家庭の省エネ

石田 次郎

私の個人的意見を記します。省エネの普及、浸透を図るには家庭の主婦への呼びかけ、対話が大切であると思います。省エネ相談会などで相手の家庭の

状況を聞いて 改善のため いくらお金がかかり、何年でそのお金を回収できるかを含めて説明できれば良いと思います。これまで京都府で家庭の省エネの取り組みをされて来ました、電気屋さんのチラシに省エネをすすめる記事を見かけたこともあります。家庭の主婦に省エネは経済的にも、環境にもよいことを意識してもらうため 関係あるところと協力しながら努力したいとおもいます。そして家庭から認められ相談されるようになりたいと思います。



家庭のゴミに含まれている資源ごみ、プラスチック、雑紙を分けて仕分けることも大切です。週2回のゴミ出しのとき家庭のゴミの減量化の努力をしています。

(エコチーム)



身近な意識

市嶋 航

「長岡京市環境の都づくり会議」の竹林活動に参加させて頂いてから4年程。現在は仕事として森林整備に携わり個人での竹林整備活動もしています。



私が取り組む活動の主は「自然環境」ですが、「生活環境」や「子育て環境」「労働環境」…環境と付く物事は多岐に渡ります。これら全てに課題や改善すべき事がありますが、その全てに共通する活動の出発点は、まずはそれを『身近なものとして意識』する事ではないかと考えています。

現在の自然環境への意識は、空気と同じで有って当たり前くらいの感覚です。お金や人ほど自分の生活に関係しないと捉えられているもの。ただ「替えがきかない」ので自分の体や心と同じくらい大切なものです。

自分を意識するように自然も身近なものとして意識してもらえよう長岡京市環境の都づくり会議の皆さんとも今後も活動していきたいと考えてます。

長岡京市環境の都づくり会議 15周年。これまでの活動に敬意を表するとともに感謝申し上げます。

(竹林再生PJT)



煙突の煙

江川 宗治

子供の頃、SLなどの煙を見て「空に上がった煙はどうなるの?」と聞いたら、大人たちは「上空に

上がった消えて無くなってしまおう」といい加減な答えでした。子供心にそれ本当?との思いが大人になるまで残り、環境への関心の最初だったのかもしれない。



現在私が気になっている環境課題は沢山ありますが一番は、世界レベルでは「人口問題」で、国内レベルでは「山林(竹林を含む)問題」です。世界の人口は現在73億7千万人を越えているそうです。1800年に世界の人口が約10億人だったのが1900年に20億人となったので、10億人増加に100年掛かったのが、現在では12年で10億人増加というハイペースとなっています。1日に20万人増加だそうです。地球の大きさは一定ですから深刻な問題と思います。

山林問題は別の機会とし、環都の皆さんを見ると色々な分野で凄い方が多く、かつ環境にも周りの人にも優しく行動力があります。私も少しでも近づかねばと思っています。

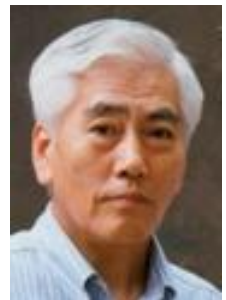
(長岡京市環境の都づくり会議代表)



緑のサポーター雑感

奥西 弘武

「若葉カップ・バトミントン大会」は憧れの「京都」での大会を目指して勝ち得た少年少女が全国から集う大舞台です。「4基の花壇に花を咲かせて迎えてあげたい」当時窓口業務に携わっていた仲間4人に強い想いが走ったのです。早速、体育館と公園管理課に



掛け合い、4人の手で年間整備することを取り付けました(ボランティアで)。その後緑のサポーター制度が出来、花を咲かそうPJTに組み入れられ、さらに公民館勤務メンバーも同じ想いに奮い立って公民館広場も範疇に入れ、市の顔ともなる重要な役目を果たしてきました。今年はバトミントン競技において、リオ・オリンピックと世界選手権で金、銀メダルに輝く成果をあげました。(全員若葉カップ出身)我々が花に関わった頃の小学生たちが成長して活躍したことをたいそう感慨深く想っています。一方10年も経過し、40人近く集まったメンバーには年齢的に辛い、労働奉仕には喜びの見返りが無い、注目や感謝の反応が感じられない、目的や楽しみが見出せない、という苦悩が生まれていることも感じています。



(花を咲かそうPJT)



…そして竹炭作りに

小根田 勝信

環境保護のボランティアに関わって15年、よく頑張ってきたなとつくづく感激しています。最初の5年間はビオトープ作りに協力してくれる人や子供たちを募り”池作り”を行いました。池にはトンボやカエル等が入り込み、生態系が出来て行く過程を見て驚きました。又、子供たちを小泉川や小畑川に連れて行き、水質や水生生物の調査や採取をして遊びました。都会を流れる川ですが魚や貝が生きて行ける綺麗な川であることに喜びを隠せません。小泉川では砂防ダムも魚道付きのものに改良され、アユも昇って行ける川になりました。



その後、西山の放置竹林の実態調査を行う中で荒れていく西山を何とかしなければと竹炭焼きを始めました。取組みの中で、竹炭が環境改善のほか、人間の健康改善にも役立つ力を持っていること、何より地球温暖化防止に大いに役立っているということに驚きました。近年、すくすく教室を開き、子供たちにその事を伝えているところです。

(ビオトープPJT)



未来予想図

加藤 克巳

デフレ傾向が続いていることは、海外生産をふくめ供給過剰型の社会が続いているしるしだと思います。少子化、共働き増加、高齢化、スピード化などは民生用、運輸用のエネルギーの増加を要請しています。



里山再生活動を続けているとヒントは森や植物にあります。森が肥料を与えないでも再生産されているのは、森の生態系の中で、栄養やエネルギー（太陽ですが）の循環が出来ているからです。大きな循環とは別に、地域で農産物の地産地消や自然エネルギーの利用のような小生産や中生産の循環を沢山つくり、無駄を省いて、多くを独占せず、協力して豊かな生活をつくるという未来予想図をしつかりつくりましょう。自分も含めてですが、自動車免許証の返上はまだできそうもありません。

二度の震災の経験を忘れないように振り返り進めていきたいです。

(里山再生PJT)



15周年の感想

北村 不二雄

「長岡京市環境の都づくり会議」15周年記念誌におめでとうございます。



普段わかっている一人では何事も出来ないのに、スタッフの皆様の努力で、竹遊びや、小泉川での生息する魚類のことや花を咲かせたり其の他、色々と子供達に経験をさせてあげたりされている様子が、「環境の都ニュース」を読ませて頂くことでつくづくわかりました。

また先日行われた「環境検定」にも挑戦させてもらい、知らないことわからない事に、又知っても行動出来ない事等、様々なことを痛感させられました。現在私は環境教育ミーティングだけ、聞かせて頂いております。これからは少しでも自分の為に、又人様に少しでも役に立てるように、出来るのであれば、何事にもチャレンジして行きたいと思っております。最後になりましたが、今後の発展を心からお祈り申し上げます。

(環境教育PJT)



全国水生生物調査

草場 克彦

私が環境の都づくり会議に入会したのは会議が発足した翌年2003年です。



当時環境測定の一つとして環境省が進めていた「水生生物調査」に長岡京市で初めて取り組みました。

最初は暗中模索でしたが、京都府がノルウェーから招聘した女性の専門官の講習会に参加したり、環境課の助言でテキストや生物図鑑などを取りそろえ市民にも呼びかけて小泉川で行いました。

サンプルを写真に撮り数量表に記入して京都府に送ると、半年くらいすると環境省の「水生生物調査」のホームページに掲載されています。

日本全国の団体、学校、個人の名が掲載されている中で、調査団体「長岡京市環境の都づくり会議」測定場所「小泉川」と書かれた地図とデータ表を見ると長岡京市の環境への取り組みが全国のレベルに

肩を並べられたと感激したものです。その後市内の他の団体や、学校などもこの調査に参加してその成果を競い環境保護の意識を高めあいました。

ところがその後第二外環の工事で小泉川の水生生物は絶滅かと危惧されましたが、多くの環境保護を思う市民の協力によりホテルの引っ越しや避難池が設置されたりして、このような環境を守る取り組みの声が、国交省や環境省、京都府に届いたのか幸い水質環境は工事前と変わっていません。地道な活動が小泉川の環境保全に寄与したのです。

これからもこのような取り組みの積み重ねにより「環境の都」を建設していきたいものです。

(元里山再生PJT、元広報担当)



もっと広げたい“木のネットワーク”

栗山 裕子

「京都・森と住まい百年の会」は近くの山の木を住まいに使って、山も暮らしも豊かにして行こう、と発足したNPOです。



係わっているもうひとつのNPOは「古材文化の会」といいます。ずっと昔から木造の家に住んで来た私たちですが、ほんのここ何十年の間に家の作り方が変わり、住まい方も大きく変わりました。大切にすればまだまだ住まい続けられる民家や町家を簡単に壊して、現代的な家づくりがされるようになりました。形あるものがなくなると、そこにまつわる生活文化も消えてしまいます。同時に、家1軒分の膨大なゴミを出します。本当にもったいない！長い時間をかけて育った木は大切に使う行かなくては次の資源が育ちません。木を大切に最後まで使っていく文化、それが古材文化です。立場は色々でも、山や木に関係する多くの人や団体が繋がっていくことで、山を元気にしていくことが出来ると思います。長岡京市環境の都づくり会議の活発な活動、共に手を繋いでネットワークを広げていきたいですね。

(NPO 法人「京都・森と住まい百年の会」)

(認定NPO 法人「古材文化の会」)

(エコチーム)



信じる！そして、今 自分にできる事をやろう！

神山 忠

退職後、環境ボランティアを始めて14年、竹炭焼きを皮切りに、ビオトープ作り、放置竹林整備、子供達の環境教育など手探りで取組んできた。行政や

市民、企業とも連携して頑張ってきたが自己満足で終わっていないか？われわれの活動は将来につながるのか？メンバーは高齢化し、新しい世代にバトンタッチはできていないし・・・。



でも、考えてみれば、われわれの活動は他のボランティアの皆さんとも連携しているし、色んな行事に来てくれる子供達やその親御さんたちは少なくとも喜んでくれているし、そう考えるとわれわれの思いは周囲の人々に伝わっているのではないかと？

そうだ。日々活動していれば地面に水がしみ込む



ようにわれわれの思いは必ず次の世代に引き継がれていく筈だ。案ずるより産むがやすし。先のことを心配しても始まらない。人の心を信じ、明日を信じて今日は自分が出来る事に汗を流そう。

(ビオトープPJT)



環境の都づくり 15周年に寄せて

白石 多津子

長岡京市環境の都づくり会議発足15周年、誠におめでとうございます。発足以来、環境都市はどうあるべきかを常に考え、その実現のために必要な、多くのご活動を継続されてきたことに、心より御礼申し上げます。皆様のご活動のおかげで、



市民の皆様の環境に対する意識が大きく向上しているのを実感します。また、「長岡京竹あそび」などは、長岡京公園一帯を会場に、子どもから大人まで、楽しみながら幅広い視野で環境問題を身近に感じ考えられる、素晴らしい機会だと思っております。ご準備はさぞ大変なことだったでしょう。運営して下さった多くの方々に感謝申し上げます。長岡京市は2013年に“環境の都”長岡京市環境都市宣言をいたしました。以降この宣言を実現するために、多くの取組みを続けております。「環境」は自然や空気のみしさだけではなく、都市計画すべての核となる大切なものだと考えております。市民の皆様が安心して幸せに暮らせる街づくりのために、長岡京市環境の都づくり会議の皆様のご活動は不可欠です。どうか今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

(環境教育PJT)



捨てる「紙」あれば拾う「紙」あり

高橋 一女

当初はゆりかご保育園職員として園での環境イベントなどの啓発活動や長岡京市内での古紙回収、廃油回収等に携わっていましたが、次第に長岡京市内だけでなく、京都府全域で環境活動をしてみたいという思いが強くなり、現在は保育園を退職し、古紙回収活動でお世話になっている京都市の古紙回収業者で働いています。

また、個人としてもこれまで培ってきた長岡京市内での古紙や廃油の回収を搬入先企業と連携してリサイクルを行っています。京都市では昨年の10月からリサイクルが可能な紙類の焼却場への搬入禁止と分別の義務化の条例が施行されました。

私には15年前に忘れられない思い出があります。古紙の相場が大暴落し、ちり紙交換等回収に携わっていた方々が次々廃業に追い込まれるなど、大混乱がありました。

行政によるごみ回収だけではなく、民間業者による回収も続けられなければ、持続可能な回収システムとはならないのです。官民一体となつての活動が大切と思い、日々の環境活動に微力では有りますが取組んで行きたいと考えております。

(エコチーム)



環境と保育

高橋 由紀子

結成15周年誠にありがとうございます。

日々、長岡京市の環境活動に多くの方々の思いの熱さを感じています。

保育園の子どもたちも、乳幼児期に豊富な自然体験を重ねることで、保育の様々な場面を通じて自然・人とふれあいを通じて思いやる心・自然を愛する気持ちが芽生えていることを感じます。

春のタケノコ掘り。収穫を楽しむほか、給食には、たけのこご飯が登場!

6月5日の世界環境デーにちなんでのイベントもすっきり定着しました。



夏には園舎に大きなグリーンカーテンが設置され、みんなで成長を楽しみます。

四季折々の行事を通じて、沢山の発見をし感動体験を積み重ねています。

これからも長岡京市の環境活動を支える中核として活躍される環境の都づくり会議の更なるご発展を祈念いたします。

(エコチーム)



私のボランティア活動 15年

田原 誠一郎

私のボランティア活動も15年になります。この間、多くの幸運な出来事と、よき支援者に恵まれたことが15年間続けられた原動力になりました。

この間に、大学での社会人受け入れシステムの開始や COP3の京都での開催にかかわる京



(みやこ) エコロジーセンターの新設等があり、環境関連の知識の習得と体験をすることができました。また、「長岡京市環境の都づくり会議」のメンバーに入れていただいたことが、地元で環境活動をする良いきっかけになりました。さらに、それぞれの出来事で、多くの人たちから暖かいご支援をいただきました。

長岡京市の小学校で「放課後子ども教室事業(すくすく教室)」がスタートしたことも幸運な出来事でした。「環境科学あそび」を担当し、年間約500人近くの小学生と一緒に遊んでいます。

私のモットーは「孫につけを残さない生活をする」ですが、私が出会った小学生が大人になった時、私との体験が地球温暖化防止に、少しでも役立っていることを楽しみにしています。

(エコチーム)



次世代に残す素晴らしい環境

堤 淳太

長岡京市環境の都づくり会議 発足15周年おめでとうございます。江川代表を始めとして共に作り上げて来られた皆様の活動に心からの敬意を表します。

長岡京市の環境への関心の高さは非常に素晴らしいと感じています。

草の根で広がる市民主導の取り組みがあつてこそのもので、その取り組みは幼稚園・保育所や小学校にまで広がっており、まさに環境の都・長岡京市を作り上げる事が出来ているのではないのでしょうか。

その成果の一つとして、次世代に向けた環境への取り組み・低酸素社会の構築を評価する低酸素杯に於いて、2013年に神足小学校が、2015年には長岡第四小学校が最優秀地域エコ活動賞を受賞する事が出来ました。



今後も、次の世代に緑豊かな西山の景観を始め自然と協和した社会を残す事が出来るよう、環境の都づくり会議の益々の発展をご祈念いたします。

(環境教育 PJT)



祝15周年

中嶋 陽子



長岡京市環境の都づくり会議 発足 15 周年、おめでとうございます。

2015 年から参加させていただいておりますが、活動の多様さに加え、メンバーの方のフットワークの軽さや実務面での強さが光る、行政にとっても近い団体だといつも感心しております。

入会のきっかけは、2014 年の長岡京市環境フェアで省エネ相談会の手伝いをさせていただいたときに田原さんからお声掛けいただいたことですが、それ以来、竹あそびやすくすく教室、環境教育ミーティング、長岡京市環境検定などに参加させていただきました。

メンバーの皆さんが高齢化している中で、大きなイベントをこなすのは大変だと思いますが、市民や子供たちと触れ合うときにきらきらと目を輝かせている皆さんの姿を見ると、この楽しさがやめられないから 15 年間もこの活動は続いてきたのだろうと思います。

ぜひとも多くの方を巻き込んで、次の 20 周年が迎えられますよう、心よりお祈りいたします。

(エコチーム)



出会いに恵まれこの環境を大切にしたい

中田 利享



15 年あまり前、大手企業の環境部長さんから『電子部品を造る私に「物(もの)」ではなくその「機能」だけを買いたい』と話しかけられはっと意識したのが「環境」との出会いでした。その後、中小企業のための「KES 環境認証」と出会い 200 社以上の人達と話す機会がありました。そんな折、長岡京市役所に事務局を置く「長岡京市環境の都づくり会議」の江川会長、(故) 村上薫さん、田原エコチームリーダーさんたちと出会いました。この 5 年間で幼児から市民

の皆さん 4,000 人以上の方々と「エコな生活」について楽しく話し行動する機会をいただき嬉しく感謝しています。

私たちの快適な生活基盤である地球の資源と環境は悪化の一方で私たちが対応しない限り改善できないことが明らかにされました。地球上の多くの地域・国々から気候変動に向け自主的な取り組みをしようとして「パリ協定」が定められすでに発効し活動をしています。

日本で京都で長岡京市で暮らしている私たちも可能などころから実行し地球環境の改善にプチ貢献を継続したいと思っています。

(エコチーム)



長岡京市をさらに住みよい環境の都に！

西村 厚子



15 周年おめでとうございます。

この長岡京市をさらに住みよい町にと願う“西山”など身近なところで環境保全に尽力されているみなさま本当にありがとうございます。この会は 15 年間の活動の継続を通して、「環境問題は市民一人一人の問題」と伝える大きな役割を果たしてきたと思います。

私の参加している環境ミーティングで様々な分野の環境に関するお話を聞くうち「私自身の周りのすべてが環境問題だ」と実感しました。

会の多くのメンバーが活躍される「竹遊び」、「リサイクルフェア」、「環境フェア」などの催しをとおり、市民が環境活動を実践してくれるようになったとも思います。

皆様の地道な日々の活動に感謝します。そしてこの会の一人に加えていただいてありがとうございます。

(環境教育 PJT)



竹あそび

西村 孟雄



春には竹の子が大きくなって美しい緑の竹やぶとなり、秋には葉が落ちて、サクサクと踏みしめる楽しさ。しかし茂り過ぎては竹林は荒れてしまうので間びきをします。その竹を使って弓、矢を作り スクスク教室の子供達と的に向かって、大はしゃぎで矢を放って遊びます。また、竹筒でコッポリを作り、コッポ コッポと歩

いている姿。竹筒で花を生ける筒を作り、おみやげに持たせると大喜びで帰っていきます。この子供達がおおきくなって竹やぶを守ってくれる事を願っています。

(竹林再生 PJT)



早くも 15 年

西村 日出男

井ノ内の角野宮神社に集合して「まち歩き」をしたのがきっかけで、「長岡京市環境の都づくり会議」に参加するようになりました。

「環境教育プロジェクト」を立ち上げ、先の小さなサポートセンターの一室で第1回を開催しました。時は2002年5月25日でした。その年の12月に国連総会本会議において、日本が提案し、2005年から2014年までの10年間を国連「ESD(持続可能な発展のための教育)の10年」とすることが採択されました。その後も隔月に欠かさず「環境教育ミーティング」開催し、この1月は「ESDと道德教育」のテーマで88回を迎えました。

新たに長岡京市と共に「長岡京環境検定」も始めました。「社会は教育を目指し、環境は教育で動かす」と考えています。多くの方に環境への関心を持ってもらいたいし、話し合いたいと考えています。

持続可能な地球環境を維持するためにも、誰もが誰もの成長に関わる地域社会の構築を目指して参りたいと思います。

(環境教育 PJT)



地球にやさしいエコライフ

秦 陽子

発足15周年おめでとうございます。長岡京市女性の会は、夏の省エネ対策として市内の小、中学校と連携し、ゴーヤのグリーンカーテンづくりを続けて9年になり、各学校でも熱心に取り組んでいただいています。

また私たち会員は、家庭でできるごみの減量や省エネ、フードマイレージの学習を通して地球温暖化防止活動を日々実践しています。

今年で8回目を迎えた『長岡京竹あそび』に、女性の会は当初より参加し、生活学校、生活会議の皆さんと廃油のろうそくづくりや当日の点灯などに関わってきました。また、数年前から始まったリユース品の販売にも参加させていただいています。長岡



京市のシンボルである竹を通して、市民が一体となる『竹あそび』で街づくりをされている環境の都づくり会議の皆さんの努力に敬意を表するとともに、今後も協力しながら地球にやさしいエコライフを推進していきたいと思ひます。

(エコチーム)

(長岡京市女性の会会長)



ボランティアにかける思い

濱田 保

竹林再生プロジェクトに参加して早いものでもう十年を越えます。放置竹林の多さに驚きましたが、その状態は年を追って悪化し、西山の雑木林が年々少なくなっている気がします。農家の方々の高齢化がその原因とよく耳にします。微力ながら少しでもお役にたてればと活動を続けてきましたが、傘寿を過ぎて思うような活動ができないのが残念です。健康のためにも何とか頑張っています。もう一つのボランティアの楽しみはすすく教室で子供たちと触れ合いの機会が持てる事です。昨今、子供のいじめが社会問題になっていますが、川でワイワイ言いながら皆で魚取りをしている姿や、竹林のアスレチックでグループで意見をぶつけ合いながらも陣地作りに興じる元気な子供達を見ているといじめなど何処にあるのかと不思議に思えるくらいです。いじめの解消は簡単なことではありませんが、私たちの活動が子供たちの健やかな成長に役立ってくれればと願っています。

(竹林再生 PJT)



環境教育の未来性

平岡 信之

「チャンスはピンチの顔をしてやってくる。」という言葉聞いたことがある。なるほどと思うことが多い。ピンチの顔に危ないと感じた時は、状況を分析し、問題解決の方策を考える。知恵を働かし工夫と努力で乗り切ろうとする。想定範囲を広げ不測の事態に備える。その結果、窮地を脱し事態が好転したという事例も多い。

このことは環境問題についてもあてはまるのではないだろうか。一見、八方ふさがりに見える大ピンチだが、実はチャンスかもしれない。「持続可能と再生」、今日的な環境教育のキーワードは、私たちの行



く手を示してくれる。ただ、何がそのキーワードの実現に有効なのかの価値観は多様である。大人でも判断の分かれる問題は多いが、そのような問題の存在を知り、適切に情報を収集し、自分なりの価値判断と意思決定を行い、社会参画のできる人材を育成していきたい。

(環境教育PJT)

(京都教育大学附属桃山小学校)



環境の都づくり会議の今を俯瞰

古澤 登美代

この会の活動が15年間続いてきた原動力は、好きなまちのために何か役に立ちたいという会員の思いでしょう。今、会員の高齢化は確実に進み、年齢に抗いながらも懸命に頑張る姿を目の当たりにします。さまざまな課題が浮き彫りになってもなお活動を投げ出さない会員たちの誠実さや、仲間同士の絆を、深い尊敬の念で見えています。

「そもそも何のために活動しているか」「目指すところは」「社会のニーズに合っているか」を常に確かめながら進むのがよいのですが、現状は目の前の活動に一生懸命で余裕がなく目的が見えにくいのでは？まわりに活動を分かりやすく伝えて賛同者を増やすことに手が回りにくくなっています。

活動を存続するには、会員の思いを尊重しながらミッションに沿って無理なく活動を進めていくこと、定年前の人を対象にしたプレゼンやSNSでの情報発信、パンフ作成などによって新たな会員・会費を獲得していくことかなと思います。

(里山再生PJT)



都づくり会議に支えられた年月

柳沼 宣裕

密林の地での長い勤務の後、帰国して選んだ場所が長岡京市でした。理由は3つありました。1つは水防団が活躍していること。次に、環境の活動が活発であること。そして、京都・滋賀・大阪への交通の便。この条件にあてはまったのが長岡京市でした。

都づくり会議は西山の森や地域でエネルギーや自然の様々な活動をしていました。また、市民活動サポートセンターが活動を支援していました。その中で、会の仲間たちや環境政策課の方々に助けられてきました。

あれから10数年。現在、私は業務として環境教育の普及や地域活性化などを行っています。ただ、仕事の関係でなかなか会の活動に参加することができ



ていません。いまでは、久しぶりに長岡に帰る車中、「今日も西山はいろんな人が守っとるなな」と山々を眺めながら思いをはせています。また今度、楽しい行事・大変な行事!!、呼んで下さいね。

(京都造形芸術大学非常勤講師・地域環境論)

(まち歩きPJT)



後継となれるように!

山本 智

「長岡京市環境の都づくり会議」が、発足15周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

長岡京市が、「環境の都」長岡京市環境都市宣言をされる7年前の平成14年1月に「長岡京市環境の都づくり会議」は設立され、



それ以来、「つむぎ織りなす環境の都」を目指し、市民・事業者・行政等を巻き込み、6つのプロジェクト活動をとおして、長岡京市の環境保全につとめられてきました。

また、長岡京竹あそび、アゼリアエコクール大作戦、西山ファミリー環境探検隊等の協働開催をされ、長岡京市環境フェア、リサイクルフェア、すすく教室等の地元行事にも参画され、「環境の都ニュース」の発行も合わせて、環境意識啓発に取り組み、持続可能な地域社会づくりを継続的に進められていることに、感謝の思いでいっぱいであります。

私自身、ここのメンバーになり3年になりますが、これからも環境問題に積極的に取り組み、後継となれるよう励んでまいります。

(環境教育PJT)



一人から多くの仲間と共に

山本 昌枝

環境の都づくり会議発足15周年おめでとうございます。

私が環境の都づくり会議のメンバーの方と最初に出合ったのは、地球温暖化防止活動推進員をしていた時に、研修の中でものごく環境について熱心に討論されていたので、すごいな一って思っていました。



省エネ対策についても積極的に取り組んでおられ、それを市民の方々にひろめたり、小学校にも出向かれたりとそれぞれの分野で活躍されていますね。私も皆さんとご一緒に活動はしていませんが、いろんな所での交流を持つ事で、

意見を交換して少しでも環境にやさしい社会になる様に活動していきたいと思ひます。(エコチーム)



環境の都、15周年に寄せて

湯川 圭造

平成 19 年に初めて竹林再生活動に参加し、以来、この活動が私の新しいライフスタイルの一環を占めるようになりました。19 才から 48 年間勤めた木材会社を退職して以来、妻の心配を他所に無給のボランティアを続けて 10 年になります。



元気であれば更に 20 周年を迎える頃までは続けたいと思ひていますが、今後は「後継者の育成」をより意識して活動に取り組みたいと考えています。

私が PJT の代表になって自負できる事の一つは女性ボランティア組織「花にしき」との交流です。いつの頃からか竹林作業などに参加頂き、筍掘りやグループのお楽しみ行事(野外パーティー)の場として金ヶ原竹林を活用して頂いたり、正月飾りを作ったりと楽しみながらボランティア活動に協力頂いています。

今後は、PJT を立ち上げた渡辺氏やメンバーの力を借りながら、地域のボランティアの皆さんとの交流促進と個々の力の融合により、より大きな、継続性のあるボランティア活動に結びつけられないかと思ひています。三本の矢の例えのように。

(竹林再生 PJT)



環境の都 15 年史発行に向けて

横井徹・横井礼子

竹林再生グループに夫婦で参加しています。すでに 3 年が経ちました。おいしい筍を食べ



たいことと、健康管理を目的に始めました。ところが、慣れた頃に夫婦ともども怪我をしました。初心者が竹藪を手入れするのはきつい仕事ですが、放置竹林が少しでも本来の姿に戻れば、人間も竹もあらゆる動物達も生き返った気持ちになると思ひて続けています。また、驚いたことに、2 年前の秋、竹藪でキノコの女王「衣笠茸」を発見したことが

あります。今年 11 月初めにも珍しいキノコを見ました。我々夫婦は午前中だけの出席ですが、春夏秋冬を通じて毎回新しい発見、特に先輩方の工夫と知恵、自然の中での思いがけない体験、人との出会い等どれをとっても、今までの人生で経験できなかったことで、大変興味を感じています。このような貴重な体験ができることが、今日まで続けられた要因かも知れません。これからも出来るだけ出席し、健康で興味深い経験を積めるように頑張っていきたいと思ひています。

(竹林再生 PJT)



ボランティアの高齢化に思う

渡辺 節郎

平成 15 年に環境の都に入り、そして今、喜寿を迎えて思う。初めての活動はビオトープで第 5 小学校の子供達とザリガニ釣りを楽しく遊んだことが思い浮かんでくる。その後、荒れ果てた西山の緑と景観を守る為、竹林再生 PJT を立ち上げ、放置竹林の整備にのめり込んだ。当時はメンバー全員が若かったし元気もあった。行政の協力も得て、放置竹林を次々と整備していった。真っ暗な竹藪が間伐で明るくなり、流れ落ちる汗も心地よかった。春の筍の報酬にも元気をもらった。



しかし 75 歳を越えると極端に身体に衰えが始め、足腰の痛みに物忘れが拍車をかけ、活動が苦痛になってきた。この現実が大いにショックを受け、将来の活動に不安がよぎり始めた。高齢化対策を何とかしなければ私達の西山にかける夢が水泡に消える。

10 年余りの活動を無にしないためには後継者づくりが必須。産官民のあらゆる組織にも危機感を訴えていくつもり。そして、いつの日か“古の都長岡京”が“環境の都”に生まれ変わる日を信じつつ、これからの人生を明日の西山再生に託したい。

(竹林再生 PJT)

編集後記

来賓の激励や提言などのメッセージには、大変考えさせられました。会員からのメッセージは思いが溢れていて、編集しながら、つい読み入ってしまいました。次は 20 周年です。地球環境、「環境の都づくり会議」はどうなっているのでしょうか。否、どうしていきましょうか。(西村日出男)

発行責任者：江川宗治

発行：2017 年(平成 29 年)3 月 20 日